

令和5年11月1日

第1回社会保障教育の推進に関する検討会（資料4）

# 社会保障教育の授業実践



都立井草高等学校

杉浦 光紀

# 発表の流れ

- 勤務校の紹介
- 厚労省の教材を利用した授業実践の紹介
- 授業に対する生徒の反応
- 社会保障教育の展望

## 高校での社会保障教育

公民科の授業で扱われている

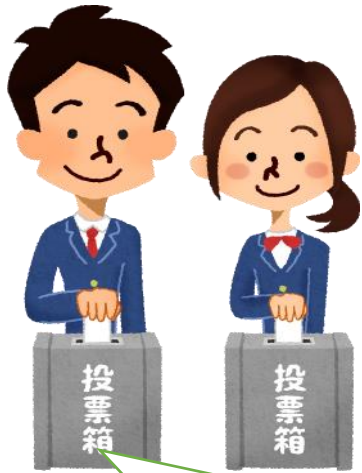
「少子高齢社会における社会保障の充実・安定化」

(科目「公共」の学習指導要領に明記)

# 都立井草高等学校（勤務校）

- 全日制普通科（7学級×3学年）
- 国際交流行事や海外修学旅行（シンガポール）
- GMARCH以上の進学を目指す生徒が多い
- 自主・自立をモットー（制服なし）
- 全国大会出場の部活 書道部・ダンス部・弓道部

アニメの背景やドラマの舞台  
として利用されたことも！



模擬投票を2012年から実施！



# ワークシート 1

【ワーク1】 これからの人生で起きるかもしれない困難な出来事にはどのようなものがあるか。書いてみよう。

- ➡ ケガ、病気 = 医療保険 (国民皆保険)
- 高齢 = 年金保険
- 親の介護 = 介護保険
- 失業 = 雇用保険
- など
- ➡ 社会保険のしくみとその理念を紹介

【クイズ1】 あなたは結婚して子どもがいるとします。もし、事故などによって30代であなたが亡くなった場合、あなたが支払った年金保険は原依存になるのでしょうか。  
①払い損となる ②必ずしも払い損にはならない

- ➡ 老齢年金だけでなく  
遺族年金や障害年金もある

## 1 社会保障について考えてみよう

【ワーク1】 これからの人生で起こるかもしれない困難な出来事にはどのようなものがあるか、書いてみよう。

【ワーク2】 予期せぬ困難を支えるのが社会保障制度です。社会保障制度のうち、社会保険には医療・年金・介護保険などがあります。もし、社会保険がなかったら私たちの生活はどのようなか、考えてみよう。

→今日は公的年金保険について考えていきます。

## 2 公的年金保険について考えてみよう

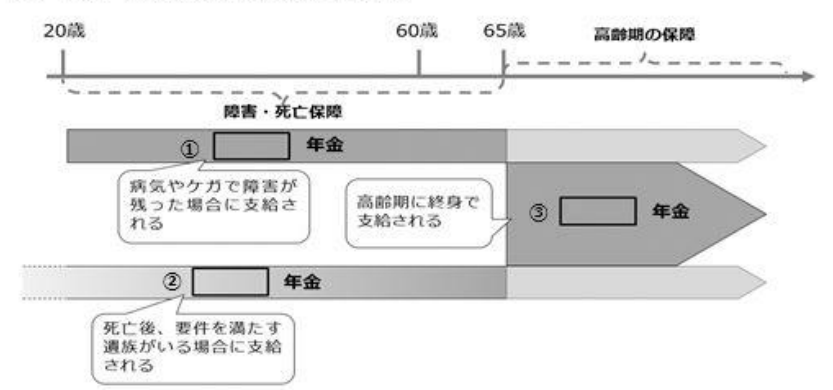
(1) 公的年金保険の意義

【クイズ1】

- 1 問目 年金保険料を払うのは何歳からでしょうか。  
①国民全員 ②原則 20歳から ③原則 60歳から
- 2 問目 年金保険料を払っていた人が、老齢年金をもらえるのはいつからでしょうか。  
①原則 20歳から ②原則 65歳から ③原則 40歳から
- 3 問目 あなたは結婚して子どもがいるとします。もし、事故などによって30代であなたが亡くなった場合、あなたが払った年金保険料は払い損となるのでしょうか。  
①払い損となる ②必ずしも払い損にはならない

→3問中… ( ) 問正解!

【ワーク3】 四角に入る言葉を埋めてみよう。

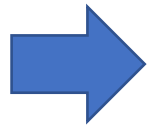


# ワークシート 2

## 【クイズ2】

今から50年後の物価はどうなっているでしょうか。

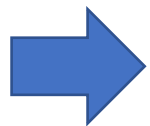
- ①変わらない                      ②上がっている
- ③下がっている                    ④わからない



物価や経済状況は見通しきれない

## 【ワーク5】

財政方式ごとの特徴と日本の公的年金保険の財政方式



公的年金保険の仕組み  
(賦課方式のメリット、デメリット)

【ワーク4】 自分は20歳になったらどの年金に入っているか、考えてみよう。

(2) 公的年金保険の仕組みと必要性

【クイズ2】

○ 1 問目 今から 50 年前のうどん 1 杯の値段は今と比べてどうだったでしょうか。

- ① 今と変わらない   ② 高かった   ③ 安かった

○ 2 問目 今から 50 年後の物価はどうなっているでしょうか。

- ① 変わらない   ② 上がっている   ③ 下がっている   ④ 分からない

○ 3 問目 今から 50 年後にもらえる年金額はどうか。

- ① 変わらない   ② 上がっている   ③ 下がっている

④ 基本的には今後の物価や賃金によるため分からない。→ 3 問中… ( ) 問正解!

【ワーク5】 四角に入る言葉を埋めてみよう。

<財政方式ごとの特徴と日本の公的年金保険の財政方式>

④ <input type="text"/> 方式	⑤ <input type="text"/> 方式
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 社会的扶養の仕組みであり、その時の現役世代の(給与からの)保険料を原資とするため、インフレや給与水準の変化に対応しやすい。(価値が目減りしにくい)</li> <li>○ 現役世代と年金受給世代の比率が変わると、保険料負担の増加や年金の削減が必要となる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 民間保険と同様に、現役時代に積み立てた積立金を原資とすることにより、運用収入を活用できる。</li> <li>○ インフレによる価値の目減りや運用環境の悪化があると、積立金と運用収入の範囲内でしか給付できないため、年金の削減が必要となる。</li> </ul>
<p>経済変動に強い。(経済変動は現役世代の給与にも反映されるので、インフレなどの経済変動を前提とした額の年金給付の原資(保険料)を確保できる。)</p>	<p>運用収入を活用できるが、経済変動に弱い。(運用で損失が出たり、運用により得られる収入以上にインフレが進んだりすると目減りしてしまう。)</p>

日本の公的年金保険の財政方式は、④  方式を基本としながら一定の⑥  も持っておくという、賦課方式と積立方式のよいところを組み合わせた財政方式。⑥  を活用することによって、④  方式のデメリットを補っている。

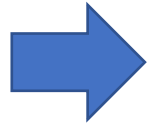
組 番 氏名



# ワークシート 3

## 【ワーク 6】

少子高齢社会が公的年金保険に与える影響について、考えてみよう。



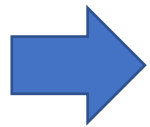
多くの生徒が負担増の問題を指摘

## 【ワーク 9】

少子高齢化が進むなかで、みんなが長生きに伴うリスクに備えるためにはどうすればよいか考えてみよう。次のAとBの考え方のどちらがよいか、その理由や具体的な対応方法も含めて考えてみよう。

A：みんなで税金や社会保険料を支払うことで政府を中心に  
対応すべき

B：税金や社会保険料を支払うのではなく、家族間で助け  
あったり個人で努力したりするなど、家族や個人が中心に  
対応すべき



次以降のスライドで詳細

### 3 公的年金保険について考えてみよう

(3) 少子高齢社会における公的年金保険

【ワーク 6】少子高齢社会が公的年金保険に与える影響について、考えてみよう。

→副教材 p.15 の人口ピラミッドの推移をチェック

(4) 人生 100 年時代のリスク

【ワーク 7】人生 100 年時代といわれるなかで、誰もが長生きする可能性があります。高齢期はどのように暮らしたいか、考えてみよう。

【ワーク 8】あなたがイメージした高齢期の生活費はどのように賄っていけばよいか、考えてみよう。

【ワーク 9】少子高齢化が進むなかで、みんなが長生きに伴うリスクに備えるためにはどうすればよいか考えてみよう。次のAとBの考え方のどちらがよいか、その理由や具体的な対応方法も含めて考えてみよう。

A：みんなで税金や社会保険料を支払うことで政府が中心に対応すべき。

B：税金や社会保険料を支払うのではなく、家族の間で助け合ったり個人で努力したりするなど、家族や個人が中心に対応すべき。

組 番 氏名

【ワーク9】 少子高齢化が進むなかで、みんなが長生きに伴うリスクに備えるためにはどうすればよいか考えてみよう。次のAとBの考え方のどちらがよいか、その理由や具体的な対応方法も含めて考えてみよう。

あなたは最終的に【ワーク9】で、どの立場を選びましたか

67件の回答



# 生徒の意見

A：みんなで税金や社会保険料を支払うことで政府を中心に対応すべき

- 家族だけじゃどうにもならない問題もあると思うし、それをサポートするための社会保険だと思う。
- 入院等急にまとまったお金が必要になった時自分で出し切れないから
- 個人や家族では知識や対応が不十分な問題があるため政府に任せるのがいいと思う。ただ、Aを選ぶならその政府が必ずしも良い対応をしてくれるとは限らないと思うので、自分たちにとって充実した社会保障をしてくれるよう選挙に行くことが必要であると思う。
- 経済格差が深刻化してしまうと考えた。
- 高所得者は貯金で生きていけるが、  
低所得者は貯金だけで暮らしていくのは厳しいから。
- 支払いをする側の年齢を引き上げたり、政府が無駄なことにお金を使わずに保険料や大切な方にお金を使ったらいいと思う。

社会制度を良くするために  
選挙に行く = 主権者意識



# 生徒の意見

B : 税金や社会保険料を支払うのではなく、家族間で助けあったり個人で努力したりするなど、家族や個人が中心に対応すべき

- 税金などをたくさん払うよりも、あまりお金がかからない方法でやるべきだと思う。
- 政府のみを信用していたら、いざという時の対応に遅れがでる。
- 収入や身体的な負担は人によって異なり、年金を支払えない人もいる。そのため、大変な家庭を助ける制度を作った方が良い。
- 現役世代の一人当たりの負担は増えるが給料は増えない現状。その点から、現在の社会保障制度を見直し再構築すべきだと思う。

無批判ではなく制度をよく考える  
= 主権者教育（新科目「公共」）

# 理解しやすかったスライド1 (生徒評価による)

## 社会保険とは？

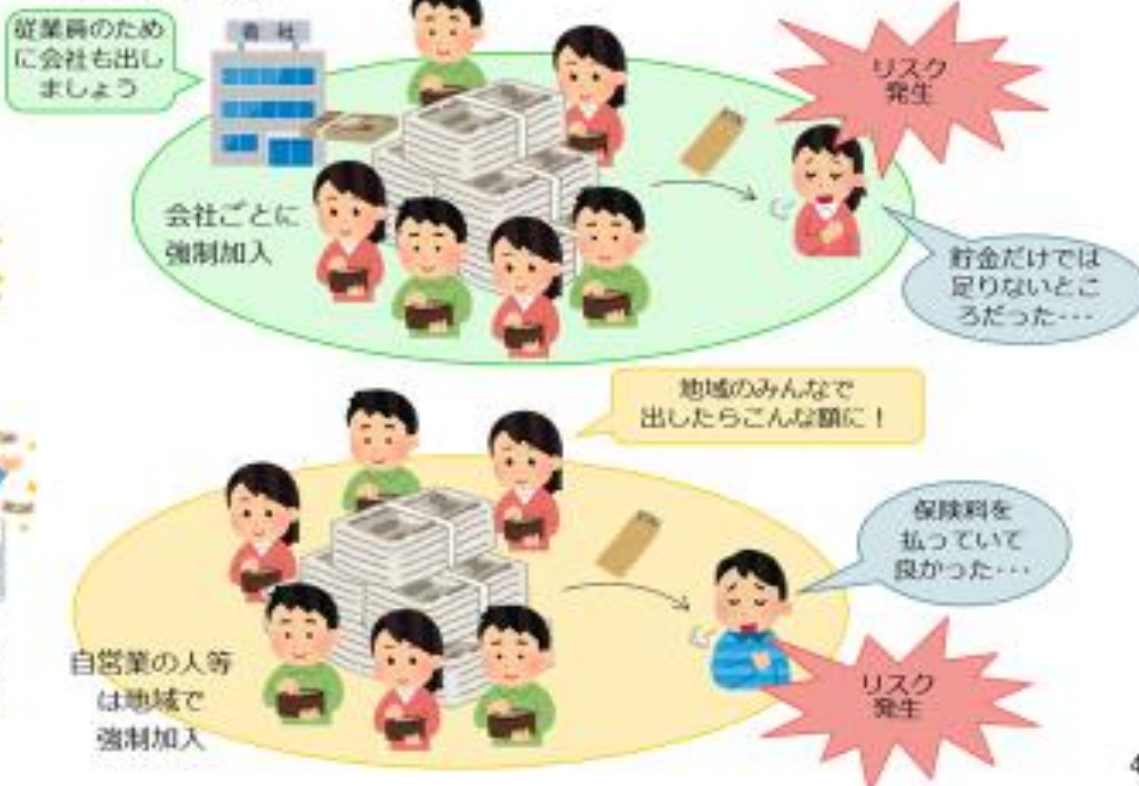
「保険」とは、誰もが人生のなかで遭遇する可能性のある様々なリスク（病気・ケガ・退職や失業、長生きによる収入減少など。）に備えて、人々が集まって集団（**保険集団**）をつくり、あらかじめお金（**保険料**）を出し合って、リスクに遭遇した人に必要なお金やサービスを支給する仕組み。

⇒社会全体でこのような「保険」の仕組みを作るのが「**社会保険**」

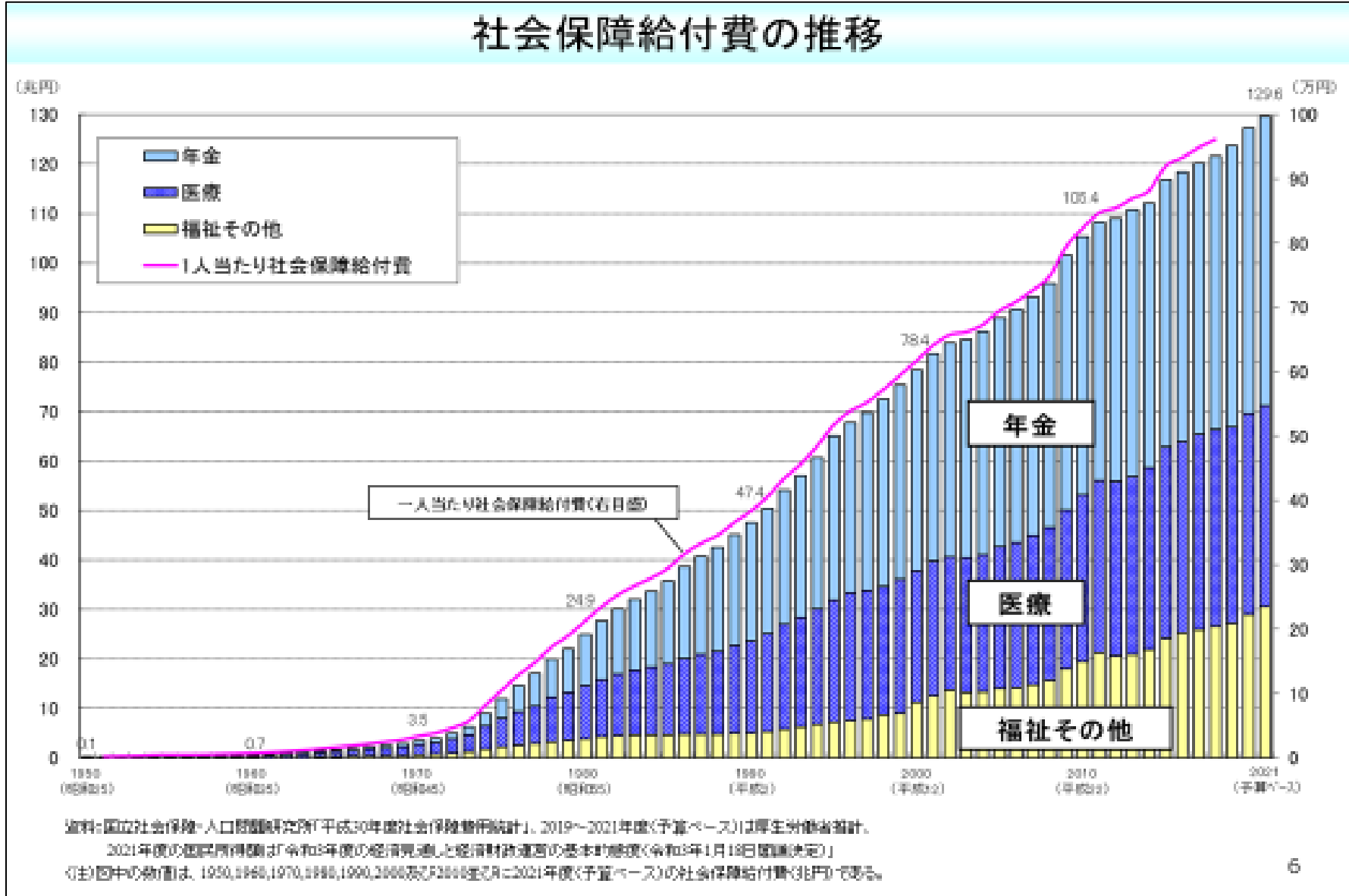
社会保険がないと・・・



社会保険があれば・・・

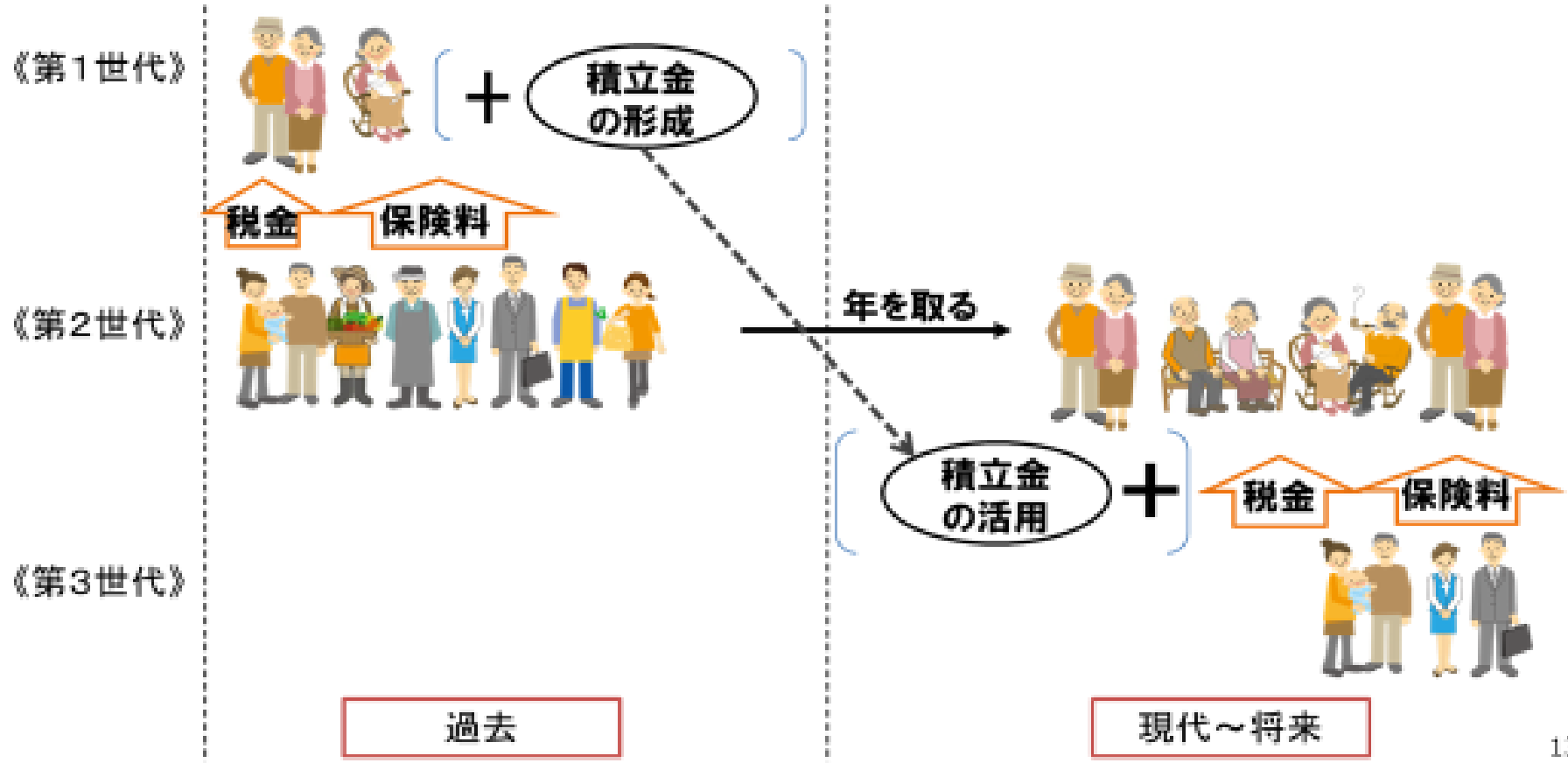


# 理解しやすかったスライド2 (生徒評価による)



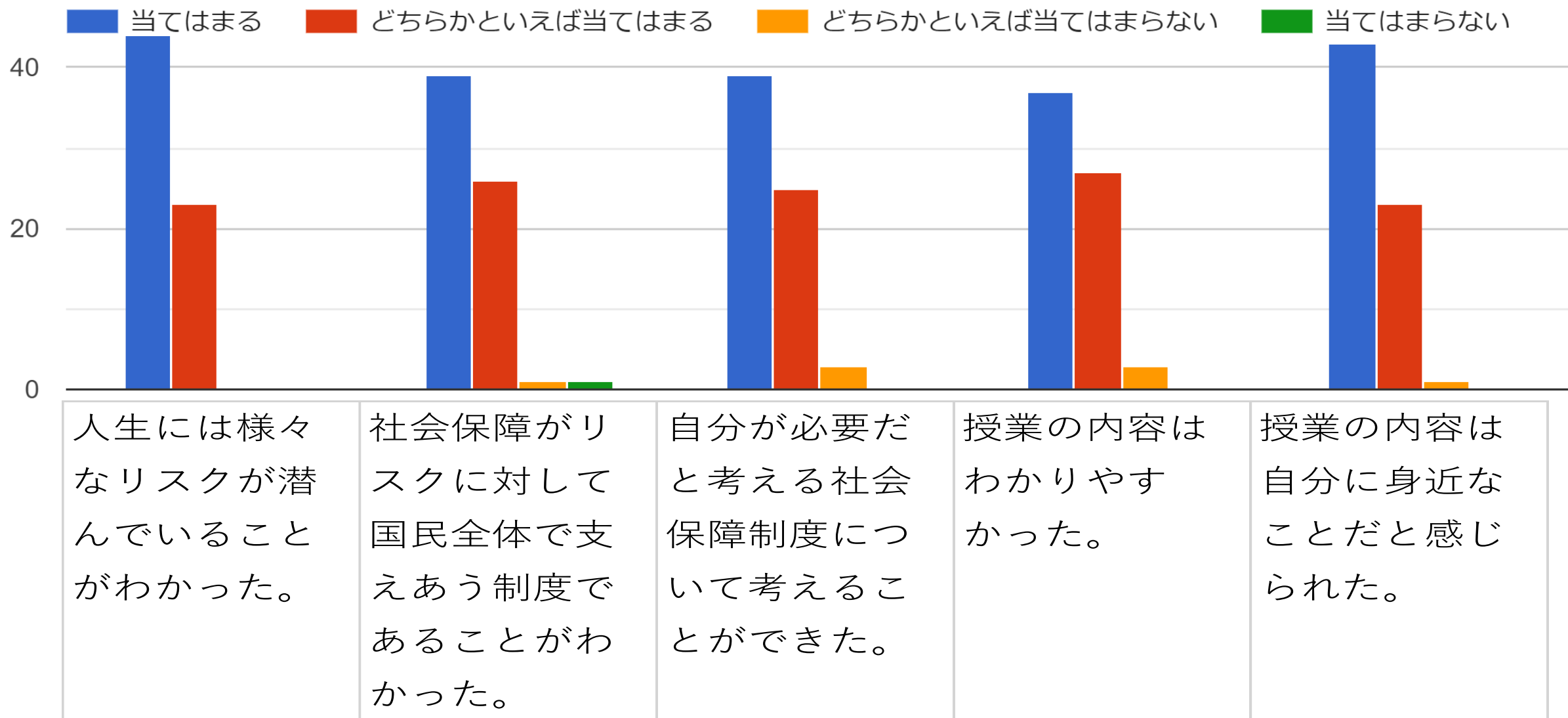
# 理解しやすかったスライド3 (生徒評価による)

- 日本を含め先進各国の公的年金保険は、いずれも、現役世代が納めた保険料をその時々の高齢者の年金給付に充てる仕組み (= 賦課方式) を基本とした財政方式となっている。
- なお、我が国においては、将来の高齢化の進展に備え相当程度の積立金を保有し、その活用により、将来世代の保険料水準が高くなりすぎないように配慮している。



授業全体を評価してください。

「社会保障って何？」に授業前は答えられなかった  
→授業後の評価からは理解できたことがうかがえる





# 生徒の感想（わかったこと）

- 社会保険は必要なのか疑問に思ってたけど自分たちの「もしも」に備えるために必要なんだと思った。
- 知らないと将来的に困ると思った。
- 今の日本の少子高齢化は深刻であることを改めて知ることができた。
- 身近にあるのによく知らない分野だったので知れて楽しかった。少子高齢化に伴い自分達が働く年齢になったとき具体的にどのくらいのお金が税金に持っていかれるのか標準的な数値で知れたら実感が湧くと思ったので知りたいと思った。
- 公的年金保険の意義についてわかった。
- 今現在円安が進んでいて、今後の年金生活などに心配が残る。だからこそ自分は働ける年代の時に将来的な貯金を進めていきたいと思った。
- ただ生きてるだけじゃなくて、このような様々な国の社会保障で自分たちの生活が成り立っているんだと改めて実感することができました。

社会保障の理念を理解！

お金への興味は高い！！

# 生徒の感想（心配や疑問）

生徒の知りたいことNo.1？

- 社会保障は**万全ではない**と思った。
- 年金はどれくらいの額を貰うことができるのか、それは全員同じ額なのか？
- これからの自分たちが年金によって幸せになれるのか。  
**年金から得る幸福は年金による苦勞よりも大きいものなのか？**
- 今少子高齢化が問題になっている中で、私たちが大人になったら1人あたりの払う年金が高くなり、**高齢になった時に貰える額が少ない可能性がある**ので**なんのために働くのか分からなくなった**。

日本の深刻すぎる課題

→データに基づいて制度や政治・経済のあり方を考えていく姿勢で

- 私たちが払った年金は**老後必ず損をしない仕組み**なのではないでしょうか。
- 保険で**取られるお金がこんなに多い**んだと改めて気付かされた。

■ 課題考えよう  
 「社会保障とは何だろう。一月下旬、東京都立井草高校（練馬区）の二年生の教室で主任教諭の杉浦光紀さん（53）が問いかける。」「災害」「病気の時に使う」と声が上がった。約四十人の生徒を前に、杉浦さんは「人生で起こりうる困難」と黒板に書き、年金は高齢者だけでなく障害を負った時、家計を支える家族が亡くなった時も支給されると説明。失業した時の雇用保険や医療、労災介護保険も例に挙げた。クイズを交えて授業は進む。年構成を示す人口ピ

## 高校で新必修科目「公共」

# 社会保障は君たちの問題

社会保障教育は、昨年末の全世代型社会保障構築会議の報告書で推進すると明記。厚労省は新科目導入で、年金と医療保険分野の各二コマ分のモデル授業に対応する指導者用マニュアルを作った。「五十分授業でそのまま使える」指導案や副教材、ワークシートも用意。「どうせ年金は破綻する」「自分で備えた方がまし」といった制度への不安・不信が、大人を通して子どもに広がる状況に危機感を持ったからだ。

二〇二一年度の国民年金の納付率は78%。担当者は「制度への無関心や保険料を支払わないことで、いざ

## 指導案作成、力入れる国



社会保障費が国の歳出全体の約3分の1を占める一般会計のグラフを示す杉浦光紀教諭＝東京都立井草高校で

ラミッドの図を見て少子高齢化が年金制度に与える影響などを、席の隣同士で意見交換。最後は各国の社会保障制度の違いを示し、その評価や日本の課題などを考える宿題を出した。

授業後、外山翔一朗さん（18）は「大人になる前に社

会保障を知っておくのはいい」と話した。「保険料を払っても将来、年金をもらえないかも」と不安をのぞかせる生徒もいた。

■ 解決する力を  
 二二年度の一年生から順に始まった新科目「公共」。

# 社会保障教育の展望

「大人になる前に社会保障を知っておくのはいい」（生徒）

社会保障の理念を伝える力あり  
 （厚労省の教材）

制度や政治への批判的な視点も  
 含めて考える必要（主権者教育）

社会保障は“みんな”の問題！